

水源の森「はるにれの樹」愛称募集 応募作品一覧

No.	「はるにれの樹」の愛称	愛称に込めた思い・願い
1	フチニレ	フチ=おばあさん
2	そらいろのにれ	①水源→水→水色→空色 ②水源の森という何もない所に、1本空に向かっている様だったから
3	風待ちの樹	丘を渡る風が気持ち良かったので
4	ハポニレの樹	ハポ=母(アイヌ語) 母のようにこの森を見守ってくれるように。
5	みまもりのはるにれ	長い間道民の森を見守ってきたはるにれの木に、感謝の気持ちとこれからもよろしくお祈りしますという気持ちを込めて
6	マザーグリーンの樹	まるでみんなを優しく見守るような存在感がお母さんのように見えたので、マザーグリーンと名付けました。いつまでもこの美しい緑の森が続いていきますように。
7	はるちゃんに会いに行こうの森	いつもそこに居て、いつでも待っていてくれるハルニレだから
8	望春のはるにれ	暑寒山系が望める道民の森で、残雪の山並みを見ながらお散歩したいです
9	孤高のニレ	丘の上に1人(1本)風を受けて立つ姿に「孤高」が浮かびました。早く周りに仲間が育ってくれたらいいと思います。
10	望郷のハルニレ	にれの木の仲間は全国に分布するそうです。この地域の入植者がふるさとを思い見上げた木、苦勞を見続けた木、そして今再生される森を見守る木。そういう思いを込めて歴史を残しておきたい。
11	はるばるの木	はるばるそだってほしいし、はるにれのはるだから
12	カムイのチキサニ	チキサニ=ニレ。神居尻地区でカムイシリ岳を望んで、堂々とカムイの如く立つハルニレ。素敵です。
13	チキサニ	チキサニはアイヌの人が、ハルニレから血のような樹の汁が出るのを見て、母のようにそこにいて、周囲の子を育てると考え、つけた名前だとのこと。お母さんのように、まわりに子どもたちがたくさん育ち、今1人だがたくさん子にうまれるくらい、森が豊かに育つように…と願いを込めて。
14	はるにれのハルちゃん	植物園のはるにれのように、ふとく・大きく育ってくれますように
15	ハレニレ	木々を大切に守り、拡げていく未来が、ずっとずっと「ハレ」でありますように。みんなが口にすると「ハレ」という縁起のよいことばが祈りになってつながっていきますように。
16	ひだまりの樹	丘の上で日の光を枝いっぱいにあびて力強く成長するはるにれの樹に、水源の森の木々も私たちが元気づけられることを願い名付けました。
17	カムイニレ	①カムイはアイヌ語で「神」の意味で、カムイシリに植えられた多くの木々が元気に育ち、豊かな森になってほしいという多くの人の願いに「神の宿る木」として答えてほしい。 ②来年には白老に先住民族アイヌを象徴する「ウポポイ」が完成し、アイヌのことを広く世界に知ってもらう機会となる。この木がアイヌの名で呼ばれることで、アイヌのことを知ってもらいたい。
18	トトロの樹	この木を見たときにトトロの映画に出てくる木と風景そのものがぴったりで、まるで木の枝にトトロとメイとさつきが座っているのが脳裏に浮かんだため、この愛称にしました。
19	ニレの大様	この森の木で一番大きく佇んでおり、王冠をまとっている姿に見えたため、この愛称にしました。
20	アテネ樹	梟は「道民の森」のシンボルキャラクター。「フクロウ」は、苦勞知らず、智恵を象徴とし、縁起の良い鳥とされていて幸福を呼び込み、水源の森と多くの人達が豊に育ってゆく思い。ギリシャの神話から「アテネ」は「ふくろう」と言われている。
21	ラクル	アイヌに伝わるハルニレ姫の話から、姫がみごもった子供が「アイヌラクル」と言われ、その後アイヌ民族の守り神になったと言う話から。水源の森がすこやかに育ってゆくように見守っている「はるにれ」の樹を意味した理由。
22	チキサニの樹	「チキサニ」は、アイヌの人々が昔から火をおこす木と言われている木なので、「チ」は我々、「キサ」はこする、「ニ」は木を表し、アイヌの人々の思いを次の世代に伝えてゆく思い。
23	希望のにれ	いつまでも緑を絶やさず、豊かに元気に育ってほしく思いを込めた。
24	えるむの樹	ニレ属を示している英の名前
25	姫木見(ひめぎみ)の樹	「ハルニレ姫」からの神話から、水源の森が元気に育ってほしく、姫の木が見守って、いつまでも、多くの人々からも安らぎを与える樹の意味。
26	姫(ひめ)の樹	「はるにれ」の樹の神話から、ハルニレ姫にまつわる出来事が神秘的なので、名付けた理由。
27	チュペカの樹	アイヌ語で太陽をチュプ。～に向かうをエベカ。はるにれの樹がすくすくと育つイメージを表すのが意味で、チュプとエベカを合わせて、チュペカの理由。
28	ハポエルム	ハポはアイヌ語で母を指します。はるにれは、英語でエルムを指します。水源の森の母となるように願いを込めました。
29	水源のチキサニ	「チキサニ」はアイヌ語でハルニレのことです。道民の森(水源の森)で長い年月、見守ってきたこのハルニレの木が11万本の苗木とともに、これからも森づくりを支えてくれるよう願っています。
30	にわか	「に」は木、「わか」は水の意味のアイヌ語です。水源の森にあるシンボルツリーなので「水の木」を表してみました。
31	チキサニ	アイヌ語でハルニレの木。 チキサ=ハルニレ ニ=木
32	はじめの樹	アイヌの伝承では、ハルニレは天地創造の折、地上に最初に生えた木といわれており、この木をはじめとして、どんどん水源の森に木々が広がってほしいという思いから。
33	マウコピッカのハルニレ	マウコピッカ=運がいい 昔、道民の森の樹木は伐採されましたが、このハルニレは伐採をまぬがれて、運よく生き残ることができた「運がいいハルニレ」です。また、神居尻山(神の山)を背景に道民の森で植樹などを行って、このハルニレに触れて行くと「運が良くなり、運氣が上がる」との願いを込めて名付けました。
34	イレンカのハルニレ	イレンカ=希望 ハルニレと道民の森に植樹された樹が大きく成長するとともに、このハルニレが道民の森のシンボルツリーになるようにとの願い(希望)を込めて名付けました。
35	水源のヤングエルム	「水源の森」の丘の上で厳しい環境にも拘わらず、全体的に枝葉が多く成長旺盛で活力ある若いハルニレ(エルム)に感じる。「水源の森」の復元を願う先駆樹木として、今後とも牽引役が期待される若いニレ(エルム)である。